

第2章 | 伊豆諸島について

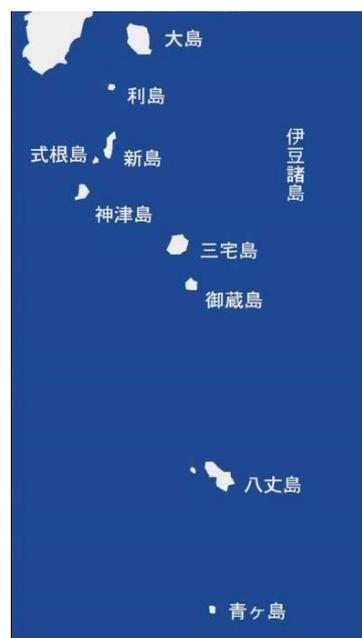
1 沿革

- 伊豆諸島は、古くから伊豆七島と称されており、遺跡や縄文・弥生式土器の発掘等により、先史時代から人が住み着いていたことが立証されている。
- 江戸時代は、徳川幕府の直轄地として、本土の多くを占める大名領とは異なる制度の下におかれた。また、伊豆諸島の人々は、特産物を江戸の「島方会所」に送り、その資金を元に生活物資を購入するなど、経済的にも伊豆諸島と江戸とは深い結びつきがあった。
- 明治時代に入り、韮山県、足柄県、静岡県とその所属が変遷した後、明治11(1878)年に東京府へ編入された。
- 明治41(1908)年に、大島と八丈島で島嶼町村制(注)が施行されて以降、各島において村の設置が進み、昭和28(1953)年の離島振興法成立時には、23村が設置されていた。その後、昭和の大合併により合併が進み、昭和31(1956)年に三宅島の旧3村が合併したことをもって2町6村になり、現在に至っている。
(注)明治政府の勅令により定められた、本土とは別に島しょ部のみに適用された地方制度
- 伊豆諸島全体が富士火山帯に属しているため、古くから火山活動による被害を受けてきた。とりわけ、大島の三原山と三宅島の雄山は頻繁に噴火を繰り返し、島民に甚大な被害をもたらしてきた。また、青ヶ島には、1780年代の噴火から島民が避難し帰還する「還住」までの約50年間無人島になった歴史がある。
- 近年では、三宅島では昭和58(1983)年の雄山の噴火により阿古地区の住宅の焼失・埋没の被害に見舞われ、大島では昭和61(1986)年の三原山の噴火により約1か月間の全島避難を強いられた。
- さらに、平成12(2000)年には、三宅島の雄山の噴火及び新島・神津島近海地震が発生し、家屋被害、断水、停電等、多大な被害をもたらした。三宅島においては、4年以上に及ぶ全島避難を余儀なくされ、平成17(2005)年に帰島を果たしたところである。

2 概況

(1) 位置

- 伊豆諸島は、東京からの距離、約100kmから約350kmの南方海上に連なっており、9島の有人離島(大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島及び青ヶ島)、その他の無人島が点在している。
- 9島の有人離島の面積合計は、約300km²で、区部の面積合計の約半分となっている。
- 伊豆諸島全体が富士火山帯に属する火山島であり、火山の頂が海上に突出しているなど、地形が急しゅんであり平坦地は少ない。また、海岸は、海蝕により切り立った断崖となっているなど、湾入部が少ないという特徴がある。



(2) 人口

- 令和2(2020)年国勢調査における伊豆諸島の人口は21,532人であり、大島町と八丈町で伊豆諸島全体の人口の約3分の2を占めている。また、青ヶ島村は、日本で一番人口が少ない自治体である。
- 同調査における伊豆諸島の高齢化率(65歳以上)は、大島町、新島村、三宅村及び八丈町で40%弱となっている。その一方で、利島村、御蔵島村及び青ヶ島村では20%前後となっている。

表 町村別人口

	人口(人)	うち65歳以上(人)	高齢化率(%)
大島町	7,102	2,713	38.2
利島村	327	80	24.5
新島村	2,441	967	39.6
神津島村	1,855	587	31.6
三宅村	2,273	894	39.3
御蔵島村	323	58	18.0
八丈町	7,042	2,801	39.8
青ヶ島村	169	31	18.3
伊豆諸島計	21,532	8,131	37.8

出典：令和2(2020)年国勢調査

(3) 基盤・暮らし

- 本土と伊豆諸島間では、船舶が運航しており、そのうち大島、新島、神津島、三宅島及び八丈島には航空機(八丈島は全日本空輸株式会社、その他は新中央航空株式会社)も運航している。いずれも住民の交通の足となっている。
- また、青ヶ島-八丈島-御蔵島-三宅島-大島-利島の各区間においては、ヘリコプター(注)が運航しており、住民の貴重な移動手段となっている。
(注)ヘリコプターによる乗客の定期輸送
- 大島、新島、神津島、三宅島及び八丈島では、島内交通として、バスやタクシーが運行している。
- 伊豆諸島の公営住宅数は、令和4(2022)年3月末時点において、1,052戸となっている。



提供：東京都島しょ振興公社

表 公営住宅等数

(単位：戸)

	公営住宅	単独住宅	合計
大島町	221	0	221
利島村	28	10	38
新島村	78	0	78
神津島村	60	0	60
三宅村	210	0	210
御蔵島村	30	23	53
八丈町	425	0	425
青ヶ島村	0	45	45
伊豆諸島計	1,052	78	1,130

出典：東京都住宅政策本部調べ
※令和4(2022)年3月末時点

- 水道は、令和3(2021)年3月末時点において、全ての島でおおむね100%の普及率となっている。
- し尿処理は、令和2(2020)年3月末時点において、利島村、御蔵島村及び青ヶ島村では水洗化人口比率100%となっている。また、三宅村及び八丈町は、それぞれ62.6%、50.4%となっている。

表 水道普及率と水洗化人口比率

(単位：%)

	水道普及率	し尿処理水洗化人口比率
大島町	99.9	90.9
利島村	100.0	100.0
新島村	98.5	96.8
神津島村	99.8	99.5
三宅村	100.0	62.6
御蔵島村	100.0	100.0
八丈町	99.7	50.4
青ヶ島村	100.0	100.0

出典：＜水道普及率＞東京都の水道(令和3年版)
 ＜し尿処理水洗化人口比率＞東京都環境局調べ
 ※水道普及率は令和3(2021)年3月末、
 し尿処理水洗化人口比率は令和2(2020)年3月末時点

(4) 産業・雇用

- 伊豆諸島の令和2(2020)年の就業者は、第1次産業1,037人、第2次産業1,997人、第3次産業8,516人となっている。第3次産業では、医療福祉が最も多く、次いで卸売・小売業、飲食店・宿泊業、公務の順となっている。
- 伊豆諸島の令和2(2020)年の農業産出額は、約26.4億円であり、八丈町が最も多く、次いで大島町、三宅村となっている。また、漁獲生産額は約22.6億円で、神津島村、八丈町の順となっている。
- 伊豆諸島の令和2(2020)年の観光客数は、約235,000人であり、大島町が約半数を占め、次いで八丈町、新島村、三宅村、神津島村の順となっている。

表 就業者数、農業産出額、漁業生産額と観光客数

町村名	就業者総数 (人)	産業別				農業産出額 (百万円)	漁業生産額 (百万円)	観光客数 (人)
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能			
大島町	3,682	230	632	2,808	12	350	145	112,415
利島村	235	38	39	158	0	45	16	2,230
新島村	1,402	57	272	1,072	1	101	166	31,912
神津島村	1,065	134	164	758	9	88	902	18,539
三宅村	1,278	79	247	936	16	235	234	20,792
御蔵島村	214	3	45	166	0	22	15	2,925
八丈町	3,700	491	562	2,528	119	1,765	777	45,556
青ヶ島村	131	5	36	90	0	37	5	637
伊豆諸島計	11,707	1,037	1,997	8,516	157	2,643	2,261	235,006

出典：＜就業者数＞令和2(2020)年国勢調査
 ＜農業産出額＞東京都農作物生産状況調査結果報告書(令和2(2020)年産)
 ＜漁業生産額＞東京都の水産(令和3(2021)年版)
 ＜観光客数＞令和2(2020)年伊豆諸島・小笠原諸島観光客入込実態調査報告書

(5) 自然環境

- 伊豆諸島の面積の約95%が自然公園であり、そのうち約87%が風致を維持するため環境大臣が指定した特別地域となっている。
- 伊豆諸島の面積のうち、森林が約63%、原野が約21%、宅地が約4%となっている。

表 土地利用と自然公園

	面積 (ha)	土地利用面積比率(%)					国立公園 (ha)	公園面積		公園面積 比率(%)
		森林	原野	農地	道路等	宅地		特別地域 (ha)	普通地域 (ha)	
大島町	9,078.4	64.0	21.2	3.7	3.3	5.0	8,732	7,327	1,405	96.2
利島村	403.9	67.8	20.3	2.4	4.3	3.6	395	352	43	95.9
新島村	2,709.3	70.5	13.5	2.5	3.8	4.5	2,631	2,180	451	95.5
神津島村	1,831.3	54.9	26.3	10.5	4.4	2.6	1,801	1,677	124	96.9
三宅村	5,523.4	43.3	46.9	1.7	2.9	2.6	5,214	4,730	485	94.4
御蔵島村	2,034.2	83.9	13.0	1.4	0.9	0.5	2,036	1,987	49	99.1
八丈町	6,914.0	71.4	4.3	12.1	4.5	4.9	6,695	5,549	1,145	92.7
青ヶ島村	594.8	56.9	26.7	9.9	2.2	2.2	-	-	-	-
伊豆諸島計	29,089.3	63.2	21.2	5.6	3.4	3.9	27,505	23,803	3,702	94.6

出典：<面積・土地利用面積比率>「東京の土地利用」(平成29(2017)年度東京都土地利用現況調査)
 <国立公園・公園面積比率>東京都環境局調べ資料
 ※土地利用面積比率は平成29(2017)年度

3 役割

- 伊豆諸島は我が国の領海及び排他的経済水域の確保において重要な役割を果たしている。
- この海域は、我が国屈指の好漁場がもたらす水産資源はもとより、レアアース、地熱、風力発電等、新たな資源や再生可能エネルギーの開発・利用という、大きな可能性を有しており、我が国の国益を維持する上で非常に重要な地域である。
- また、資源開発、文化の継承、環境保全等の様々な観点から、その果たすべき公益的な役割も大きなものとなっている。
 - ・ 海洋資源や水産資源等を活用した実験・研究の場を提供
(大島沖での浮体式洋上風力発電調査、島しょ農林水産総合センターでの農水産物研究等)
 - ・ 多様な文化を継承、歴史的遺産等を維持
(八丈島の本場黄八丈、三宅島の銅造観音菩薩立像、新島の大踊、神津島のかつお釣り行事等)
 - ・ 密航・密輸等の犯罪防止機能
 - ・ 固有の自然環境や生態系を保全
(大島のジオパーク、神津島の天上山、御蔵島のツゲ、アカコッコ、カンムリウミスズメ、ミクラミヤマクワガタ等)



ジオガイドツアー (大島町)



アカコッコ



ミクラミヤマクワガタ

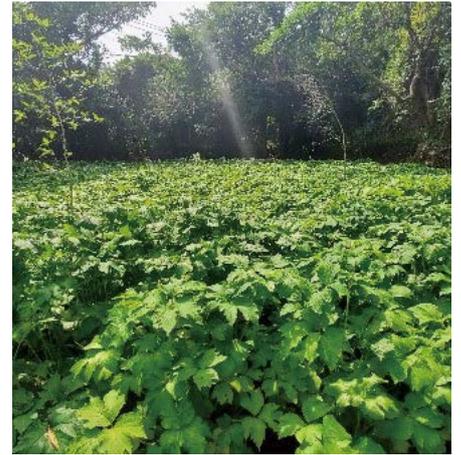
- さらに、固有の自然・文化が残され、東京から直接アクセスできる伊豆諸島は、「首都圏の癒しの空間」として、都民・国民に余暇活動や自然・環境の体験・学習の場を提供する貴重な財産となっている。
- アシタバ、フェニックス・ロベロニー、キンメダイ、タカベ等特色ある農水産物や、椿油、焼酎、くさや等の特産品の提供といった、都民・国民生活に対する重要な役割を担っている。



キンメダイ



くさや商品各種



アシタバ